居間を安全で使いやすく整えよう

位置関係と条件を考えて、3つの物の置き場所を決めます

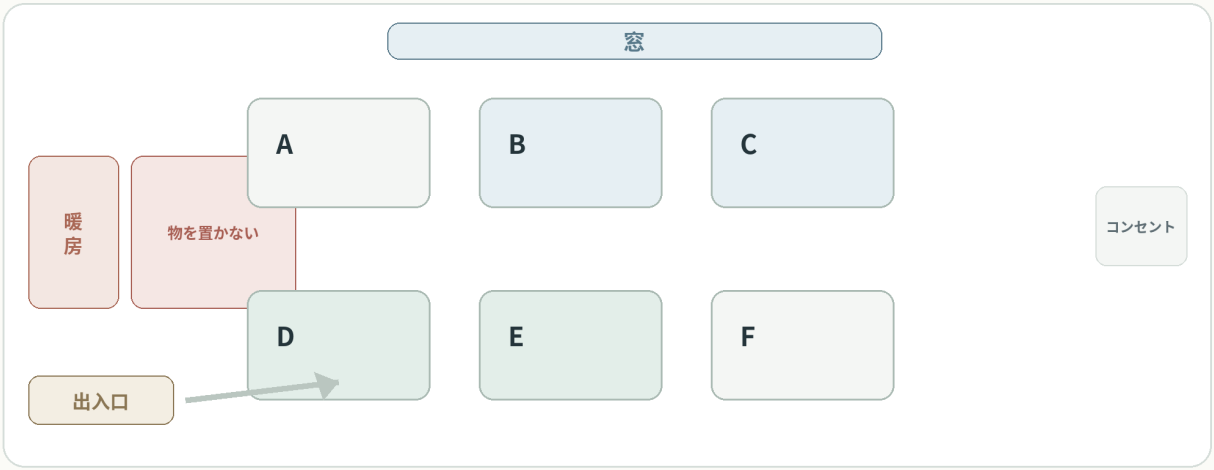
目安 10〜15分　難易度：標準　書字：少なめ

場面

家で読書をするため、居間を使いやすく整えます。
「いす・小テーブル・歩行器」を、条件に合う場所へ置きましょう。

1 部屋の様子を確認する

A〜Fの場所と、窓・出入口・暖房・コンセントの位置を見ます



2 3つの条件を整理する

同時にすべての条件を満たせるように考えます

① いす

読書をするので「窓の近く」。
暖房の前には置かない。



② 小テーブル

いすのすぐ近く。
コンセントにも近い場所。



③ 歩行器

いすの近くで、出入口側。
通り道をふさがない。



3 置き場所を決める

A〜Fの記号で答え、最後に理由も考えましょう

いす　　(A〜F)

小テーブル　　(A〜F)

歩行器　　(A〜F)

なぜその配置にしましたか。大事だと思った条件を1つ書きましょう。

発展：Bの場所が使えなくなったら、3つの置き場所をどう変えますか。

解答例｜考え方の例

答えは一つではありません。場所・理由・工夫をつなげて考えます。

① 気になる場所と、困る理由

通路を横切る電気コード

足や歩行器が引っかかるかもしれません。

じゅうたんのめくれた端

つま先が引っかかり、バランスを崩すかもしれません。

ローテーブルで狭くなった通路

体や歩行器が家具に当たり、通りにくくなります。

床に置かれた新聞・雑誌

踏むと滑ったり、足を取られたりすることがあります。

この4つのうち3つを選ぶ例です。別の気づきも理由を聞きましょう。

② 安全で使いやすくする工夫

・コードを通路から外し、壁際に沿わせる。
・じゅうたんのめくれを直し、再びめくれない方法を考える。
・テーブルの位置を変え、通路を広げる。
・新聞や雑誌を、使いやすい高さの棚などに収納する。

③ 歩行器を使う場合 ／ ④ 自分の暮らしへ

③ 出入口からソファまで、歩行器で通り、向きを変えられる
　空間をつくる。テーブルを動かし、床の物も片付ける。
④ 例：よく通る場所に物を置かず、新聞の置き場所を決める。

使う人の動きや使いやすさに合った工夫であれば、他の案も考え方の例です。

支援者向け解説

対象：高齢者 ／ デイサービス・通所リハビリ・介護施設等

ねらいと生活機能とのつながり

生活場面を見渡し、問題に気づき、理由を考え、改善案を選びます。
歩行器という条件を加え、最初の案を見直すことまで扱う課題です。
室内移動、物の整理、家具の配置など、日常の判断につなげます。

どのような認知機能を使うか

視空間認知

家具・床の物・通路の位置関係や空間の広さを捉える。

問題解決

困る理由を考え、実行できる改善案を出す。

遂行機能

目的に沿って工夫を選び、条件追加後に案を見直す。

補助的に使う機能：計画性・推論・認知的柔軟性

難しさに応じた支援の調整

難しい場合：見つける数を1つに減らす。出入口からソファまで、
指で道をたどる。「足に当たりそうな物は？」と段階的に促す。
書字が負担なら、指さし・口頭回答・支援者の代筆で進める。
簡単な場合：「テーブルは残す」と条件を加え、別案を考える。
2つの案を比べ、直す順番と、その理由まで説明してもらう。

観察するとよいポイント

見渡し方／理由と改善案のつながり／条件変更への対応を見ます。
自発的な考えと、どの声かけで考えが進んだかを捉えましょう。

診断・点数評価用ではありません。図は縮尺図ではなく、実際の幅は判断できません。